

週日の説教

金 大烈 神父 2010年9月23日(木)

《罪を意識し、癒しを求める心を持ちましょう - そのためには、祈りの生活 - 》

今日の福音(ルカ 9:7-9)は、洗礼者ヨハネを殺したヘロデの話ですね。ヘロデは、イエス様のうわさを聞いて、イエスという人物の正体が気になります。それを確かめるために、家来達に、「噂になっているイエスという人物は、どういう人物なのか。」と聞きます。

聖書の中のヘロデについて語られている部分を見ますと、ヘロデが洗礼者ヨハネを憎んでいたのは確かです。しかし、ヨハネの言うことに尊敬も感じていたと聖書は伝えています。ですから、ヨハネを憎んで“いなくなればよい”と思うのと同時に、ヨハネの言うことが正しいことも認めていたのです。それでも、いろいろな物語で皆様をご存知のように、口にしてしまったことを守るために仕方なく洗礼者ヨハネの首をはねてしまいました。

皆様も、洗礼者ヨハネの首をはねたヘロデの立場になってみてください。どのような気持ちになるでしょうか。自分の悪口ばかり言う預言者のヨハネが好きではないけれど、その人は正しいことを言っています。だから良心の痛みを感じたのでしょう。“この人に害を加えれば、罰を受けるだろう”と思い、神様を意識したのでしょう。しかし、仕方なくその首をはねました。そのような立場だったら、皆様はどのような気持ちになるのでしょうか。そして、それが気になっている時に新しい人物が現れます。名前はイエス。その人は、洗礼者ヨハネよりもっと素晴らしいことを行っているという噂が広まっています。その人は誰だろう、と気になりますね。ということは、ヘロデの中にも先祖からいただいた信仰があったということです。先祖たちが伝えた信仰の教育をきちんと受けていたから、怖かったのです。自分が神様の預言者を殺してしまったことに恐れを感じたと思います。

さあ、人が罪を犯した場合には、大体3つの反応が出ます。

一つ目は、「ああ本当に私は悪かった。」と思います。「この罪に赦しをいただければ、楽に生きることができない。」という気持ちになります。これが、普通に私たちが考える信仰者の姿です。

二つ目は、鈍くなってしまい、自分の犯した罪さえ意識しません。これは一番大きい病気です。本当に救われにくい心の状態です。

三つ目は、敏感すぎる反応です。日本ではあまり見かけませんが、韓国では、毎日赦しの秘跡を求める人がいます。何でもないようなことに心を痛み、「この罪を赦してください、赦してください。」という人がいます。これも病気です。なぜ病気だというのでしょうか。毎日自分のことを反省して、「これは罪」だと思いながら赦しの秘跡を求めることが、なぜ間違えなのでしょう。教会の教えは、できるだけ頻繁に赦しの秘跡を求めなさい、と言っているのに、それを薦めるべき司祭の口から、なぜ「毎日赦しの秘跡を求める人が病気である」と言えるのでしょうか。それには訳があります。罪を敏感に感じるのは間違えではありません。しかし、赦しの秘跡に与ることで罪を赦された、という信

仰がないのです。イエス様、神様が、怖い存在になってしまいます。だから罰を受けたくない気持ちで、「ああ、これはまた間違えた。」と思い、走って赦しの部屋に入ります。そのような人は、いつも追いかける気持ちで、神様がくださったこの美しい世界の楽しさ、喜びも感じずに過ごすのだと思います。

逆に二つ目の全然罪を意識しない人、「何でこれが罪なのだろう。」と思う人は、一番救われにくいタイプの人です。なぜならば、良心というものは、私たちが敏感に使おうとすればするほど、本当にいろいろなことを受け取ることができるのに、使わなければ鈍くなるからです。皆様も、子どもの頃、初めて犯した罪に本当に震えながら心を痛めた記憶があると思います。親に知られたら大変だと思って隠したこともあるでしょう。その時、親の顔を見たら申し訳ない心でいっぱいになり、どうしてよいか分からない体験をしたと思います。その心をイエス様が見ていらっしゃいます。しかし少し大きくなると、同じようなことが起こっても「それは何でもないこと。」と言ってしまい、自然にその罪を犯してしまうのが私たちの姿です。洗礼を受けたばかりの頃には、いろいろなことで教会の掟に忠実に従おうとします。しかしだんだん時間が経つと、間違えても自分を正当化するようになります。その時はそれでよいかもしれませんが、結局、一番大事にしなければならないことさえ、失い、忘れてしまうのです。けれども神様は、年をとるとそういうことに敏感に戻れるように恵みを与えられたようです。赦しの秘跡を求めるのは、どの世代の人々よりもお父さん、お母さんのような年齢を重ねた世代の方が多いからです。ということは、神様は私たちにいつでも機会をくださっている、ということです。私たちはいつも「私と共に生きる機会をあげるから、それに気づいて、応じてほしい。」と叫んでいるイエス様の叫び声を聞いているのではないかと、私は思います。

3つの反応のうち、最初に紹介した「これは間違えた。これは罪を犯したのだ。」と思ったら、^{まこと}真に^{つづかい}痛悔の気持ちを持ちましょう。痛悔のない赦しの秘跡では意味がありません。本当に赦しの秘跡の恵みを求めるのなら、何よりも心からの痛悔が必要です。形式的ではなく、自然な心の働きによる痛悔です。その痛悔の心が自然に出るためには、私たちは心の畑を耕さなければなりません。そして、心の畑をきれいにする唯一の方法は、イエス様を愛することしかないでしょう。イエス様を愛するためには、やはり祈りの生活に入らなければなりません。

もう一つ、ヘロデが見せた罪の意識が私たちに教えるものがあります。それは、“罪によって被害を受けた人はもちろん痛いのですが、罪を犯した者も自由にはなれない”ということです。ですから、出来るだけ罪から解放されるように努力しなければなりません。そして、仕方なく犯してしまった罪については、逃げ場を探すことより、「心から悪かった」と思わなければなりません。悪かったことをはっきり意識して、根本的な癒しをもらわなければなりません。同時に、悔い改めた罪を神様が赦しくださったという確信を持つことも必要ではないかと思えます。

ありがとうございました。